

【1】テーマ AID（非配偶者間人工授精）

【2】課題

不妊治療の選択肢として生殖補助医療の技術を利用するカップルが増えている。家族観が多様化し急速に社会が変化する中、日本の制度はどのようなものであるべきか。以下に掲げる〈参考文献〉を読み、(1)～(4)の設問に答える形で論述せよ。

- (1) AID とは何か。本書は AID についてどのような視点から書かれているか。
- (2) 出生告知をめぐるどのような問題が指摘されているか。
- (3) 出自を知る権利の保障について、日本の現状には諸外国と比較してどのような問題が指摘されているか。
- (4) AID についてあなたの考えを述べよ。

【3】参考文献 大野和基『私の半分はどこから来たのか― AID [非配偶者間人工授精] で生まれた子の苦悩』（朝日新聞出版、2022 年）

【4】留意点

1. 【3】に掲げた参考文献を必ず読み、それを参考に小論文を作成してください。参考文献以外の文献も参考にしてください。参考にした文献は全て小論文の末尾の参考文献欄に明記してください。直接引用する場合は、どの文献の何ページから引用したか、必ず注記してください。
2. 小論文の字数は 2,000 字程度が目安です。小論文は、指定原稿用紙（様式 6）を用いて、原稿用紙に記載されている記入上の注意に従って作成してください。小論文には、「小論文題名」と「氏名」を明記してください。「小論文題名」は各自でつけてください。
様式 6 については本学ホームページ(<https://www.hgu.jp/examination/examination-requirements.html>)よりダウンロードし、「A4 サイズ」・「片面印刷」で出力の上、必ず手書きで作成してください。
3. 合否の評価は、【2】の(1)(2)(3)(4)のそれぞれについて、小論文の内容と口頭試問の結果により総合的に行います。口頭試問では、提出された小論文に関する質問が中心となります。

学部	法学部（２部）
教科・科目名	課題小論文
出題方針	AIDは、日本で初めて実施されてからかなりの年月が経過しており、これにより生まれた子も相当数に上ります。しかしその一方でAIDをめぐる法制度や規律は必ずしも十分なものでなく、今なお解決を要する問題が存在しています。 参考文献とした本書は、AIDにより生まれた子の「苦悩」に焦点を当てたものとなっています。受験生には本書の内容から、AIDをめぐる倫理的・法的に如何なる問題が生じているのか、そこでは関係者間にどのような利害関係が生じているのか、それらを踏まえてどのような解決策があり得るのかについて、自分なりの論理的な考察を行うことを期待しています。
設問の意図	まず、論文作成に当たってはその扱う対象を正しく理解することが必要であり、そのために本書が対象とするAIDというものについて、とりわけこれにより生まれた子の「苦悩」の中身について、本書の内容から読み取ること、それを適切に文章として表すことを求めました。 そして「出自を知る権利」の保障に関して、その前提となる出生告知をめぐる現状と、そしてあり得る法制度とその問題点等について、本書の内容からこれを読み取り、適切に整理して示すことを求めています。ここではそれぞれの問題点、すなわち誰のどのような利害が対立しているのか、それについてある方策・措置を採ることによってどのような影響を及ぼすことになるのかといった点について、その関係性を把握することが求められています。 その上で、そうして纏められた客観的な情報に基づき、受験生各自がそれらの問題点について自分なりの考察を深めること、それを説得力を以て論理的に展開することを求めています。
総評	総じて本書の内容については良く理解できていたと思います。しかし、それを文章として適切に示すという点ではやや不十分なものも見られました。また、自分なりの意見を持つという点においては、細かな具体的な問題点については良く考えることができて一方、それらの問題点相互の関係性についての理解が不十分であり、その結果全体として見たときに矛盾を生じてしまっているという傾向が見られました。